



学習だより

第18号
令和7年12月1日発行
宇都宮市立陽北中学校
学習指導部

「学習だより」は、本校のホームページからご覧になれます。
携帯電話・スマートフォンから、QRコードを読み取ってご覧ください。



とちぎっ子学習状況調査の結果より②

昨年（令和6年）の8月2日付の下野新聞の記事を紹介します。～雷鳴抄「学力テストの新聞」

小学6年と中学3年を対象に行われる全国学力テストを巡り、市町村別に結果公表を求める声がかつて盛り上がった。一部の知事は結果を基に市町村教育委員会を競争させ、予算査定に反映させようともしていた▼しかし過度な競争を招きかねないとして見送られ、現在の都道府県と政令指定都市別に公表する形式に落ち着いている。むしろ重視すべきなのは、正答率と子どもたちへのアンケート結果の相関関係である▼毎日朝食を食べ、毎日同じ時間に寝起きする子の方が正答率が高い。家に本がたくさんある子の方が正答率は高かった。経済格差や貧困問題が、背景に透けて見える▼ゲームの時間が長いほど正答率が低くなる傾向もある。4時間以上ゲームする子は小6で17・3%、中3で16%もいた。県教委が小5と中2を対象に実施した県版学力テストでも同様な傾向が見られ、直近の3年間では最も高率だったという▼そんな中、新聞を読む子の方が正答率が高いという結果にはほっとさせられた。特に中3では顕著な差がみられる。国語だけでなく数学でも正答率が高い。読解力が高まるのだろう▼本県の児童生徒の平均正答率は全国平均並みだった。心配するほどのことでなさそうだ。新聞をもっと読んで全体が底上げすれば、新聞の作り手としてはこれ以上の喜びはない。

※文章中の波線~~~~~は、後から付けました。

前々号（16号）で、生徒の平均肯定回答率についての結果を載せましたが、今号では「正答率とアンケート結果の相関関係」（主に生活面）についてお知らせします。

《◎教科の正答率と「正の相関」が顕著に見られるもの～正答率が上がるもの》

- ・学校のきまりを守っている。
- ・毎日、朝食を食べている。
- ・学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- ・自分の行動や発言に自信をもっている。
- ・時間を上手に使うことを、心がけている。
- ・自分のよさを人のために生かしたいと思う。
- ・自分が持っている能力を十分に発揮したい。
- ・家でのきまりや約束を守っている。
- ・家の人と学習について話をしている。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。
- ・地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。

教科の正答率は上がる

《▲教科の正答率と「負の相関」が顕著に見られるもの～正答率が下がるもの》

教科の正答率は下がる

- ・睡眠時間（7時間以上8時間未満がどの教科も正答率が一番高い）
→睡眠時間が少なくても多くても…
- ・1日当たりのテレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりする時間が多いほど…
- ・1日当たりのテレビゲーム（コンピュータ、携帯型、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の時間が長いほど…
- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が長いほど…

生活の様子と教科の正答率との相関関係については、いろいろな研究があります。

例えば、十分な睡眠、バランスの取れた食事、運動習慣などが学業成績に影響を与えることが示されています。生活習慣が健康的であるほど、集中力や記憶力が向上し、結果的に正答率も高くなる傾向があります。

本校生徒についても同様なことが言えそうですが、それに加えて「基本的な生活習慣が身に付いている」ことや「規範意識」「責任感」が高いほど正答率も高くなることがうかがえます。

また、スマホの使用時間と教科の正答率にも関係がありそうです。最近の研究によると、スマホの使用時間が長いと、特定の教科の成績が低下する傾向があると言われています。特に、数学や理科などのSTEM教科*において、スマホの使用時間が長い生徒の正答率が低いという結果が示されています。

ただし、これは一概にスマホの使用時間が成績に直接影響を与えるということではなく、スマホの使用時間が他の活動（例えば、勉強時間や睡眠時間）に影響を与えることで、間接的に成績に影響を与える可能性があると考えられています。

教科の正答率とゲームをする時間の関係については、いくつかの研究があります。一部の研究では、適度なゲーム時間が学習効果を高めることが示されています。

例えば、ゲームをすることで脳のリフレッシュが促され、集中力が向上する可能性があります。

ただし、ゲーム時間が長すぎると、学習時間が減少し、正答率が低下する可能性もあります。バランスが大切ということなのでしょう。

本校生徒では、

○スマホでメールやインターネットを「1時間以上する」は46.3%

（2時間以上は24.1%、3時間以上は18.9%、4時間以上は11.1%）

○ゲームを「1時間以上する」は72.%

（2時間以上は42.4%、3時間以上は22.8%、4時間以上は15.0%）

○TV・動画・DVDを「1時間以上視聴する」は84.9%

（2時間以上は56.8%、3時間以上は28.7%、4時間以上は16.3%）

となっていて、利用時間が長いことがうかがえます。家庭でのスマホなどの適切な使い方について、ルール作りが必要なのかもしれません。



*STEM教科とは…科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）の教育分野を総称する語です。

*正の相関関係…1つの変数が増えるともう1つの変数も増える関係（例：勉強時間が増えると成績も向上するなど）

*負の相関関係…1つの変数が増えるともう1つの変数が減る関係（例：ストレスレベルが高くなると、睡眠の質が低下するなど）